

当院における膺分泌物検体の *Trichomonas vaginalis* 検出率と検出法の比較検討

◎前川 友香<sup>1)</sup>、久米 千晴<sup>1)</sup>、奥田 和之<sup>1)</sup>、松本 幸一<sup>1)</sup>  
社会福祉法人大阪暁明館 大阪暁明館病院<sup>1)</sup>

【はじめに】*Trichomonas vaginalis*(TV)は性感染症(STI)の原因菌の一つで、世界で1億人以上の罹患者がいるといわれている。その他、*Chlamydia trachomatis*(CT)、*Neisseria gonorrhoeae*(NG)、*Mycoplasma genitalium*(MG)なども原因菌とされている。TVの検出には従来から直接鏡検法、増菌培養法が主として実施されてきたが、鏡検法の感度は低く、培養法は3~7日と時間がかかるため迅速で高感度な検査法が求められてきた。2022年にPCR法によるTV/MGの検出が保険適用となったので従来法とPCR法での陽性率を調べ、検出感度の比較を行った。同時にPCR法にてCT、NG、MGも測定した。

【対象および方法】2023年1月より11月までの間に当検査科に提出された膺分泌物検体668件を対象とした。非連結匿名化したうえで*Trichomonas vaginalis*を①直接鏡検法、②増菌培養法、③PCR法にて実施し陽性率を求め各法の比較検討を行った。

また、標準菌液をもちいてrealtimePCRを実施し増菌培養法及びPCR法の最低検出感度も求めた。

【結果】668件中TV陽性は①法で3件(0.45%)、②法で3件(0.45%)、③法で5件(0.75%)となり、CT陽性はPCR法で21件(3.1%)、NG陽性はPCR法で2件(0.3%)、MG陽性はPCR法で3件(0.45%)となった。PCR法でのTVの最低検出感度は5.2cells/mLであった。

【考察】TVやNGの検出にはPCR法以外に簡便な鏡検法や培養法が可能であるが、CTやMGの検出はPCR法に依るところが多い。今回の検討より従来法の鏡検法や増菌培養法に比較してPCR法は迅速・高感度に検出できた。さらに検討を重ね、検出感度測定の詳細な内容と併せて報告する。